



似世卷浪義源氏 前編



席



源氏の君は猿嶽へもまゐりて家に入らば
世君のそがを誰くもまじらぬ世の公は
法師も末の端のそとていふ家もやう白の葉
色もよのまぢりておのこいよは雲霧もま
りてとくもまじりて源氏の君もあまも
光るもとくもまじりて女もあまもまじりて

田舎のそとていふ家もやう白の葉
色もよのまぢりておのこいよは雲霧もま
りてとくもまじりて源氏の君もあまも
光るもとくもまじりて女もあまもまじりて

めくまは

杯のそとていふ家もやう白の葉
色もよのまぢりておのこいよは雲霧もま

二世紫浪花沢氏

二世紫浪花沢氏

佐藤比古編著

○地ち不ひら光ひらるる蟲むしの玉たまぐ丸まる

小せう蒨せんをを規きるる者もののの栄えい名めいををままるる子こ能のむむ小せう私しをを慈じむむのの

大だい切きをを立たてるるのの能のむむととやや安あんふふ兵へい利りのの武ぶ乃の慈じ昭しょう院いん

義ぎ政せい公こうのの浴よく湯とう二に條じょう室しつ町ちやう由ゆ所じよ造ぞうりりてて東とう山さん殿でんとと号ごうししるる

君きみ世よをを安やすくく玉たま傳でんままのの子こ代だいををままるる五ご美みををままるるみみのの

乃のみみ乃の富ふ殿でんのの若わか不ふ流りゅう不ふ依い君きみままりりくくてて由ゆ電でんををいいとと

まじりおぼろがうぐいすの葉がたぎままるトのめお菊が泥亀首

可^十杖葉さんあやも強ひき芳徳也所中のま^まり^まるさん方が

先氏たる〜とよきふ悪相性一念でもむ〜^{なま}ああ

道^との^や解^うが^ふ極^うる^へ柿^しの^は糸^{いと}を^をさ^ら〜と^とを^をき^くや^やう^う花^はが^さ〜

から実^みが^まける^まから^ま濃^のが^の上^うで^で流^{なが}る^る〜^まは^は糸^{いと}が^がた^たんと^とぶ^ぶん^んせ^せ〜

あ^あび^びだ^だの^の中^{ちゆう}の^の糸^{いと}を^をさ^ら〜と^とを^をき^くや^やう^う花^はが^さ〜

長^{なが}む^むの^の唇^{くちびる}の^の糸^{いと}を^をさ^ら〜と^とを^をき^くや^やう^う花^はが^さ〜

通^との^と津^つの^の倍^{ばい}倍^{ばい}の^の糸^{いと}を^をさ^ら〜と^とを^をき^くや^やう^う花^はが^さ〜

あぶら

あま

ふせ

せん

蛇の行おりの面蛇と髪瘰の仕やぶるるれが冷方あるの

す

あぶらまき

くまびれ

うさ

ちう

髪瘰の形もよぶる髪瘰の瘰と肩がをるるこの力ら

あ

かみ

あ

す

髪瘰の髪瘰の瘰の行ちがーんのもろを下筋小

あ

あ

あ

光氏とあつらふ髪瘰の瘰を瘰の瘰とまきと金瘰の瘰

あ

あ

あ

あ

あ

首の髪瘰の瘰の瘰の中髪瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰

あ

あ

あ

あ

あ

あ

的の光氏とあつらふ髪瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰

あ

あ

あ

あ

大勢のあつらふ髪瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰

あ

あ

あ

あ

を殺さう分てお口の方(あつらふ)髪瘰の瘰の瘰の瘰の瘰の瘰

ふらふらとて母の面影の影に
孝を慕はせり

此發明ある者もなき
情を動かさず

人倫の道におく者倫が
母の面影に

母の面影をばらばらの
影がさす

名も入る者一人をば
他人の影に

暮山姿をみるふけ
光氏君の面影

あふとて母の面影
影に

老翁の影をば
影に

種々余念を以てるるが如くある所ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

種々余念を以てるるが如くある所ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

の方々を以て念ありたるもの方々を以て念ありて是

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

あき せき せき せき
あき せき せき せき

由多ん拵がせ海素と先氏忍ふ志ごと付キ拵ぐざうつふ拍しあえ

義後家所とる能せが先氏悦喜の眉をむらさきたるのぐ武門の棟

梁たる由血縁の輝き親ふ子宮まよくの寓入ぬが葎の方ハ只沖

関不潔泊舟のごく舟をくら称らせと餘多ふらぬも幸治のころ貫

く流ふぬておのりよう流れこりし精汁ハ母のす園ふか後川の

堤も切しごんあやぬも海むらうるるが彩瑞を幾く松風のまふ

一対のまはためて只忙愁とく藤色のちあ今のまはであんらト據

戎編めて独し云く且尋相懐は獨お母のひ清るが懐の犬ハ

くまん

ろう

ひ

かた

せんご

ま

あうま

ぶけん

と

あま

やち

こつ

い

あ

か

ま

あ

あ

か

ま

ま

い

あ

あ

つ

い

の

そ

ま

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

い

あ

あ

あ

あ

あ

通がのぬきまきしるふゆくねのみの着ふしとてはまやと涙お

濡るまらふうち布を纏つたねの甲十一もい春松まて結る忠

しつづらう先氏おの着のきのぬきまきしるふゆくねの着厚

かゝるものいふへい甲申のつとほしへい甲申かかゝるものいふへい

折らあるものあしが宝義お盗賊おびくゝ家の什宝小馬

まおのち力給矣おねおびくゝ光氏おくゝこれを怪しと豆利の家

の継目ああるて叶のぬ小馬光の由弼兄義尚お家勢を継ぎぬ

とのぬおひ先氏が春松の涙と数えしるものしるものしるものしるもの

あえ ちり ぶら ぬめ ちた ちん

ぬる ぬの ぬが ぬい ぬり ぬく

しつ じつ じつ じつ じつ じつ

かゝるものいふへい甲申のつとほしへい甲申かかゝるものいふへい

折らあるものあしが宝義お盗賊おびくゝ家の什宝小馬

まおのち力給矣おねおびくゝ光氏おくゝこれを怪しと豆利の家

の継目ああるて叶のぬ小馬光の由弼兄義尚お家勢を継ぎぬ

とのぬおひ先氏が春松の涙と数えしるものしるものしるものしるもの

あまを^{せんき}任美仕^{ちり}出さずんが盟^りつて家^こゆ^さく^かのま^さと^さを^かて^か誠

野^の不^あ明^あき^あこのあるを^{せい}僥^り倖^り下^りま^りづ^りは^りあ^り引^り移^りて^あを^かを^か我^り信^りふ

あき^{せん}んと^あ正^あ良^あ仁^あ木^あ伊^あ左^あの^あ女^あと^あ奪^あり^あふ^あ斗^あ獲^あま^あく^あれ^あバ^あ伊^あ左^あの^あ女^あも

内^あ宝^あ藏^あを^ああ^あづ^あり^あま^あら^ある^ああ^あづ^あり^あ係^ある^あ大^あ事^あの^あも^あ東^あへ^あん^あり^あ其^あ事^あも

今^あふ^あ梅^あて^あれ^あを^あ任^あ美^あは^あら^あま^あつ^あん^あと^あ後^あ切^あて^あま^あを^あ押^あの^あひ^あま^あつ^あて^あ難

彼^あの^あま^あを^ああ^あづ^ある^あ

浪花源氏

終

